

NEWS CIT

2022
6.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 橋本研・池田さん優秀賞/藤本研2人ポスター賞/安藤教授に標準化貢献賞/磯野助教授が大多喜町で授業/ベスト・ティーチャー賞に熱海教授
- 3面 高校教員に入試説明会/天体衝突探る衝撃指標確立/第27回文化の祭典
- 4面 自治会クリーンデー成果/虫の音にリラックス効果/寮運動会再開

創立80年を語る1本の棒

玉川学園理事長から贈り物

大学創立80周年の5月15日、教職員らの「感謝の集い」が開かれた。式典は行わず出席者は教職員・家族・同窓会関係者に限定。本学創立に尽力した小原國芳翁の孫で3代目の小原芳明・玉川学園理事長が列席され、小原理事長から、千葉工業大学の歴史を伝える大切な品となる「幣串」(注1)が寄贈された。瀬戸熊修理理事長は「貴重なもの」と、創設時を伝える歴史的資料に感謝した。

玉川大と本学の関係は1942(昭和17)年、千葉工業大の前身である「興亜工業大学」が玉川学園のキャンパス内に創立されたことに始まる。この計画に携わったのが玉川学園創立者で「全人教育」の提唱者でもある小原國芳氏だった。その後、興亜工業大は玉川の地を離れ、太平洋戦争終戦前後の混乱に翻

その後の、興亜工業大は玉川の地を離れ、太平洋戦争終戦前後の混乱に翻

両大学の創立に小原國芳氏が携わ



建物解体時に発見された幣串

2019(令和元)年9月26日には、建学の教育理念で結ばれた千葉工大と玉川大の両大学が、教育・研究・社会貢献に係る諸活動について連携・協力を推進するため、包括的連携協定を締結。現在に至るまで教育・研究分野で実践の指針となってきた。

以来、ともに発展し、学術と産業の進展・人材の育成に寄与するために協力してきた。

この棒は、近年まで「旧本部棟」として現存していた興亜工大予科本館を解体した際に見つかった幣串だ。校舎の棟上げの際に、大工の棟梁が

屋根の上に乗る、弥栄(ますます栄えること)を願って振幣(注2)に使用したものだという。

小原理事長は「私たちにとっては非常に貴重な歴史的な資料ですが、玉川学園が持つよりも、千葉工大に持っていたたい

幣串を手にした瀬戸熊理事長は、墨書きされた「興亜工業大学本館上棟式」の文字を読み上げ、「貴重ないただきものに、感無量です」と、感謝の言葉を述べた。



瀬戸熊理事長(左)にサプライズプレゼントの幣串を手渡す小原理事長



興亜工業大予科本館(撮影は戦後とみられる)



2022年、中央柱の上部で発見された幣串(▷印=建物解体時)

5月15日、教職員感謝の集いが東京都内のホテルで開かれた。当日は多忙の中、菅義偉前首相、萩生田光一経済産業大臣、ジャーナリストの櫻井よしこさんが駆け付け、お祝いの言葉



瀬戸熊理事長(左)と松井学長

80周年 感謝の集い開く 小原玉川学園理事長を招いて

を述べた。菅前首相は、本学がワクチン職域接種をいち早く行ったことに感謝の気持ちを伝えるに来た、と話した。

にはできるだけ大きな夢を持って突き進んでいってほしい、それが教育者のひとりとしての願い。そのために教育環境整備を進めていく所存です」と述べた。

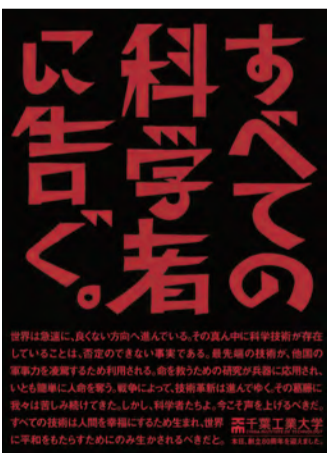
瀬戸熊理事長はあいさつで「思えば昭和17年の5月15日、玉川大学の壮大な夢と理想のもとに建学されました。本日は、本学の創立に尽力した小原國芳翁の孫で、3代目である小原芳明・玉川学園理事長にもお越し

会場ではこの日のために制作した創立80周年を振り返る動画が上映され、教職員らは、改めて千葉工大80年の歴史に思いを馳せていた。

記念の新聞広告に反響

本学は創立記念日に全国紙の朝刊に記念広告を掲載したII写真。中央に「すべての科学者に告ぐ。」——統一して「世界は急速に、救うための研究が兵器

に活用され……」と科学技術の負の側面を語る。そして「科学者たちよ。今こそ声を上げるべきだ。すべての技術は人類を幸福にするため生まれ、世界に平和をもたらすためにのみ生かされるべきだ」と結ぶ。



世界は急速に、長くない方向へ進んでいる。その真ん中に科学技術が存在していることは、否定の出来ない事実である。最先端の技術が兵器に活用され、いとも簡単に人命を奪う。戦争によって、技術革新は進んでゆく。その結果に我々は苦しめられてきた。しかし、科学者たちよ。今こそ声を上げるべきだ。すべての技術は人類を幸福にするため生まれ、世界 千葉工業大学に平和をもたらすためにのみ生かされるべきだ。 2022.5.15(朝刊)掲載

大学の広告らしからぬ、斬新で挑戦的なメッセージだ、とSNSなどでも話題を呼び、大卒にも感想の電話や、賛同の意を伝える手紙がきた。

高流動コンクリート 圧送時の品質分析で優秀賞

橋本研・池田さん

土木学会の第49回関東支部技術発表会(3月8~10日、Zoom)に

よるオンライン開催で、池田信義さん(都市環境工学専攻修士2年、



橋本研一朗研究室II写真)が「締固めを必要とする高流動コンクリートの圧送前後における品質評価に関する分析」を発表し、優秀発表者賞を受賞した。

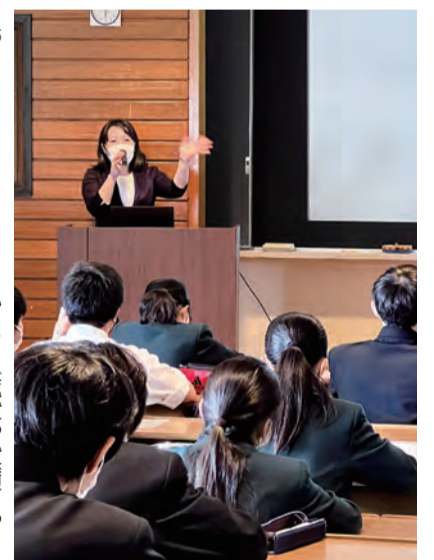
大多喜町でまちづくり授業

磯野助教が高校生に

都市環境工学科の磯野綾助教は、房総半島南部の大多喜町が抱える課題に理解を深め、地域貢献への意識を高めるため、

大多喜高校(中間芳秀校長)で「地域をよくするってどうすればいいんだろう?」と題して模擬授業を行ったII写真。

池田さんは「多数の参加者の中で、自分の発表が認められたのは素直にうれしいです。今後も精進を重ね、全国大会やその他の学会発表でも認められるようにしたいと思います」と語った。



磯野助教の専門は「景観工学、まちづくり」で、「地域に誇りと愛着を持って暮らすにはどうすればいいのか」「地域固有の魅力とは何か」の問いに、景観やまちづくりを通して伝えようとしている。自身が大多喜町出身でもあり、地域を良くしていくために必要なたれた」といっていた。後日、表彰状と立派な盾が届き、うれしかったという。

藤本研2人ポスター賞

ファイバレーザ開発で

高度なレーザと光子源に関する第11回国際学会(ALPS2022)II

ファイバレーザを開発している。コロナ禍でオンライン開催が続いたが今回、対面発表が復活した。

レーザ学会主催、4月18~21日、横浜市のパシフィコ横浜(開催)のポスターセッションで、高橋健太さん(電気電子工学専攻修士2年、藤本靖研究室II写真左)と黄金井彩花さん(同1年II同右)が「DY3+ドープ耐候性フッ化物ファイバを用いた黄色(波長575nm)レーザの開発」を英文発表し、ポスター賞を受賞した。



2人は藤本教授の研究で、光材料の物性やレ

安藤教授に標準化貢献賞

人間工学会



日本人間工学会(吉武良治理事長)は、知能メディア工学科の安藤昌也教授に対し「人間工学の普及と発展に多大な貢献があった」として、6月18日付で標準化貢献賞を贈った。

日本人間工学会は、国際標準化機構で制定される国際規格(ISO規

格)のうち人間工学に関する規格について日本を代表して審議を行うほか、日本にとって有益なものを日本産業規格(JIS規格)として発行するなどの活動を進めている。

安藤教授は、人間工学に基づいた製品コンセプトの開発やユーザエクスペリエンスデザインの研究を行う一方、人間工学に関するISO規格の国内対策委員会の委員のほか、JIS規格の委員として、ソフトウェアにおける高齢者・障害者への配慮設計指針やユーザビリティ(使いやすさ)の定義に関する規格の策定に携わった。また、人間中心設計に関するJIS規格の委員長を務めるなど、人間工学関連規格の策定・普及に貢献した。

ベスト・ティーチャー賞に熱海教授 3年度後期GL賞に9教員

令和3年度後期のグッド・レクチャー(GL)賞に教員9人が選ばれ、6月9日、受賞式が行われて、松井孝典学長から表彰されたII写真。前後期のグッド・レクチャー賞からさらにベスト・ティーチャー賞として熱海武憲教授II左から4人目IIが選ばれ、表彰状と盾が贈られた。



説明。また、地域にかかわる人たちについても、定住者のような定住人口▽観光目的や通学通勤者のような交流人口▽地域のファンとなりうる関係人口——に分け、各々の地域へのかわり方の例を挙げ、動画などを用いて説明した。

磯野助教は「今日の授業が、皆さんの探求学習活動につながるよう、今後のテーマ設定に少しでもヒントとなればうれしいです」と話を締めくくった。

- 令和3年度後期グッド・レクチャー賞
- ベスト・ティーチャー賞
 - 熱海武憲教授(機械工学科)「計測工学」
 - グッド・レクチャー賞
- 小山和也教授(先端材料工学科)「材料電気化学」▽山崎克巳教授(電気電子工学科)「電気回路解析学」▽内海秀幸教授(都市環境工学科)「構造力学I、応用力学」▽大川茂樹教授(未来ロボティクス学科)「信号処理論、数値解析学I」▽横山利章教授(教育センター)「線形代数応用」▽金田晃一教授(教育センター)「スポーツ科学」▽軍司圭二准教授(教育センター)「微分積分」▽木島愛教授(教育センター)「言語と文化」

高校教員に説明会

ライブで全国にも配信



5年度入試

高校教員を対象にした
 本学の令和5年度入試説明会が6月7日、東京スカイツリータウン、6月10日津田沼キャンパスで開かれ、2日間で計157校161人の進路担当の先生たちが参加した。写真。また、新型コロナウイルス

2回の説明会では、日下部入試広報部長が前年度を振り返り、新型コロナウイルス対策でいち早く対面授業を実施したことや、ワークシフトの導入、WUILS対策として、津田沼での説明会をライブ配信し、全国各地で78校78人が視聴した。

最終盤では、大川茂樹・入試委員長（副学長・未来ロボティクス学科教授）が昨年度入試結果の詳細を話したほか、令和5年度の総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験の要点などを説明。受験生が

「不確実な時代を切り拓く、ファイナンス変革」と題した講演会（文藝春秋主催、Sansan（株）協賛）が5月26日、オンラインで開催され、本学社会システム科学部の角田仁教授が写真IIが特別講演を行った。

角田教授の演題は「DX時代における本社機構（経理・財務等）変革の意味と意義」。角田教授は、DX（デジタル変容、デジタル・トランスフォーメーション）の略語によって社会経済シ

ステムが大きく変化している現代、ビジネスにおける喫緊の課題として「本社機構が自らデジタル人材の育成を行う必要がある」と強調した。

角田教授は東京海上日動システムズ執行役員、名古屋経済大教授などを歴任。デジタル人材育成

率よい実験手法を開発。PERCの2段式軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

型の新規プロジェクトや高校生向け参加型プログラムにも触れた。
 続いて、昨年度好評だった学生プレゼンに、今年度は建築工学専攻修士1年の中村史奈さんが登場。「在学生からみた千葉工大」を話した。
 本学に入学した理由や学んでいること、大学への要望など本音を語り、教員からは「実際に学んでいる様子や、先生との関係性が見られてよかった」との声が聞かれた。

安心して入試を迎える仕組みや進学支援について話し、高校教員らは納得の表情で聞き入った。
 今回、津田沼キャンパスでは見学希望者を募り、中村さんが研究分野に関係する「音環境実験室」を案内。昨年からスタートした「高度技術者育成プログラム」の拠点となる演習室を公開し、

惑星探査研究センターの秋山演亮主席研究員が宇宙産業を支える高度技術者を育成するプロセスや社会に輩出する仕組みなどについて説明した。

講演ではまず、デジタル人材・IT人材に関する国内外の状況について、「日本は最新の世界デジタル競争力ランキングで28位。2位の香港、5位のシンガポール、8位の台湾、12位の韓国、15位の中国に比べて、アジアの中でも順位を著実に落としている」と警鐘を鳴らし、日本が低位にあるのは技術的な問題で

はなく、「組織と人材」のあり方に問題があると認識を示した。
 その上で、IT人材の育成は世界的な競争になっており、アップルやアマゾンなどに代表されるDX資本主義というべき

社会経済変革のただ中で、企業自らがIT人材を確保・育成しなくてはならないと強調。国の情報教育を強化する流れやコロナ禍でのリモートワーク化などを好機と捉えるべきだとした。

講演会では角田教授のほか、一般財団法人日本総合研究所会長の寺島美郎氏が「日本が埋没した理由と復活への条件、資本主義の構造変化とデジタル化がもたらす光と影」と題して基調講演、

Sansan（株）のBill ONE Unitプロダクトマーケティングマネージャーの柘植朋美氏が「請求書受領のデジタル化から始める、請求書業務の効率化」と題して講演した。

IT人材の育成 急務

角田教授がオンライン講演



学会会長を務めるほか、ベンチャー企業数社のアドバイザーも兼任している。

講演ではまず、デジタル人材・IT人材に関する国内外の状況について、「日本は最新の世界

デジタル競争力ランキングで28位。2位の香港、5位のシンガポール、8位の台湾、12位の韓国、15位の中国に比べて、アジアの中でも順位を著実に落としている」と警鐘を鳴らし、日本が低位にあるのは技術的な問題で

はなく、「組織と人材」のあり方に問題があると認識を示した。その上で、IT人材の育成は世界的な競争になっており、アップルやアマゾンなどに代表されるDX資本主義というべき

社会経済変革のただ中で、企業自らがIT人材を確保・育成しなくてはならないと強調。国の情報教育を強化する流れやコロナ禍でのリモートワーク化などを好機と捉えるべきだとした。

天体衝突探る「衝撃指標」

黒澤上席研究員らが確立



多くの隕石は、母天体で経験した天体衝突の跡を鉱物組織の歪み（衝撃変成組織）として残す。もし隕石に方解石（炭酸カルシウム結晶）が含まれ

るなら、これを調べれば「過去の太陽系でどんな天体衝突が起きたのか」動的な姿を浮かび上がらせることができる。

変成度から隕石の歴史を知る新指標を確立したとして6月15日、記者発表された。

2がもたらした小惑星リュウグウの試料にもその粒子が含まれている。方解石の衝撃変成について、は、ごく弱い衝撃（5千気圧未満）か、非常に強い衝撃（20万気圧の場合）だけが知られていた。研究チームは中間の衝撃（1万

率よい実験手法を開発。PERCの2段式軽ガス衝撃銃で衝撃を与え、偏光顕微鏡、X線マイクロCT、微小部X線回折法などで詳細に観察した。

その結果、衝撃圧力が3万気圧を超えた場合に、方解石粒子の大部分が波状消光と呼ばれる不均質な光学的特徴を示すことを確認。数値計算でも解析した。

計算では、直径100μmの母天体に直径20μmの天体を秒速5μmで衝突させ、3万気圧を超える衝撃圧力が加わる領域の広さを調べた。波状消光を

示すような粒子が発生する領域は、衝突点から約30μm程度の領域に限られることが分かった。

リュウグウ試料の調査が進み、試料中の方解石が波状消光を示した場合、地球に届いた試料の少なくとも一部は、リュウグウ母天体の30μmより浅いところにあった可能性が高いといえる。

来年には米国の探査機が小惑星ベノヌの試料を持ち帰る予定で、ベノヌ試料にも方解石が含まれている可能性があり、指標による分析が期待できそうだという。

3年ぶり キャンパスで 楽しみな祭～

第27回

文化の祭典

コロナ禍でオンライン開催が続いた「文化の祭典」（文化会主催）の第27回が5月29日の日曜日、3年ぶり

に津田沼キャンパスで対面で開催された。学内関係者だけで

光さんII都市環境工学科4年IIや文化会会長の藤井日南子さんII情報システム通信工学科4年IIが決めたキャッチコピーは「文化の再燃3年ぶりキャンパスで祭りを楽しみな祭」。現地に戻った

祭典を全力で楽しんで



富樫委員長



▲ ミニゲームアドベンチャーに参加
 ▲ 精密ロボット工学研究会



▲ ストラックアウト



▲ 思い出を写真に残そう



▲ 電気研究部



▲ 書道倶楽部

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体間の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体間の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体間の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体間の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

富樫委員長の話引き継ぎもなく不安でしたが、文化会常任委員の協力もあり、無事に祭典を終了できました。学内関係者の開催でしたが新入生のサークル体験や参加団体間の交流の場として十分な働きができたと思います。来年は地域の方々も招待できるよう頑張ってもらいたいです。

学内・商店街でごみ拾い

自治会クリーンデー成果



身近な環境で、ごみのポイ捨てなどをなくす大切さを実感した自治会では、学生一人ひとりの美化意識を高め、足元から

寮運動会再開

コロナ禍緩和 150人参加

学生寮の大運動会が6月11日(日曜日)、新習志野キャンパス野球グラウンドで3年ぶりに開催され、青空の下、寮生、教職員ら約150人が体を思いきり動かした。

企画委員長・野中一桜さん(プロジェクトマネージャメント学科4年)や寮長の樋田海都さん(情報通信システム工学科4年)らが考えた種目は、玉入れ▽障害物競争▽借り人競走▽長縄▽しっぽとり▽フロア対抗リレー(花形の騎馬戦や2人3脚はコロナ対策で中止された)。

応援席のテントは多めに設置して密を避け、感染予防に配慮した。寮運動会は、異なる学年が連携し寮内の団結意識と交流を促すもの。寮3年ぶりで運営経験者0人。頑張る企画・実施しました。前日の天気予報は頑張りか天に届いた気分。けが人もなく、盛り上がりよかったです。

虫の音にはリラックス効果

関教授ら産学連携で検証



載された。

建設コンサルタントの日本工務(株)(本社・東京都千代田区)と本学プロジェクトマネージャメント学科の関研一教授(写真)、東邦大、国立環境研究所の産学連携チームは「多様な虫の鳴き声に人に対するリラックス効果をもたらす」とする研究成果を6月17日、記者発表した。公園や緑地の整備に生かされるのが期待される。

成果は都市緑化の国際学術誌「アーバン・フォレストリー・アンド・アーバン・グリーンニング」に掲載された。

昆虫の種類が豊かな千葉県白井市の草原でバッタの仲間4種(エンマコオロギ、カンタン、キン

カ)の鳴き声を録音し、音響解析を行った。その結果、エンマコオロギの鳴き声は、人の心理に好影響を及ぼすのではないかと、4者合同で検証した。

鳴く虫の種類が増えるほどリラックス効果が高まると推定された。4種の音響スペクトル分析でも聴感上の調和が裏付けられたという。

関教授は慶大から2011年に在籍後、本学で製品開発プロセスマネージャメントや音響振動設計を研究。人脈を生かしての産学連携研究となった。

心理学的測定法(セマンティック・ディファレンシャル法)で、各音源の印象を回答してもらい、因子分析や音響物理解析を用いて、種や種数によって鳴き声に対する好み程度に違いがあるかどうかを検証した。

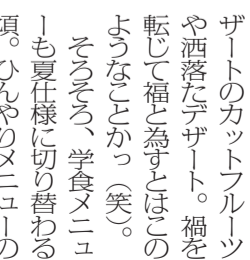
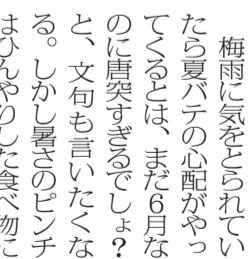
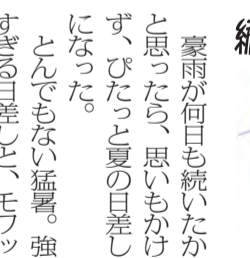
今回の比較的均質な学生集団を対象としたので、文化や年齢を考慮した分析は今後という。

同窓会

本来なら大学は、自由に学び交流を通じてコミュニケーション能力を高め、友達を増やすと共に、社会に順応する力をつけていくべきところですが、コロナ禍が続いており、なかなか思うようになりません。それでも母校のコロナ対応は、対面授業を優先したので、

他校の学生よりは恵まれているかもしれません。3月の終わりに蔓延防止の対策が解除されてから、感染者数も徐々に減少し、特に重症者数が大きく減った事もあり、人々の行動が、感染予防を行いつつも徐々に活発になって参りました。様々な機会を対面で行うようになり、食事会も増えて参りました。コロナ禍はいづれ収束するのだから、喜んで参りますが、すでに変わってしまった今の習慣は

有る部分残り、上手く折り合いをつけていかなければと思います。私事ですが、5月の同窓会総会にて会長を退任いたしました。在任中は皆様に、大変お世話になりました。おかげで曲がりなりにも職を全うすることができました。心から御礼申し上げます。この後は新会長岩館和巳さん電子S51卒によりのご支援をお願いします。同窓会前会長 池永 憲明



大会の運営委員たち ▲リレーで熱戦は最高潮に

盛り上がった麻袋ジャンプ

大縄跳び

四季雑感

先日、2015年にグアム語学研修の引率をした時の卒業生達と会う機会があった。慣れない土地で1カ月間寝食を共にし、様々な困難を乗り越えた経験値は、つい数カ月前に出会ったとは思えないほど深い絆となり、その関係は帰国後も続いた。

そんな彼らが卒業して早5年、久々に会う表情はすっかり社会人になっていた。既婚者もいれば、この研修がきっかけでTOEICの勉強を続け、外資系IT企業に引き抜かれた者もいた。話題の中心は「女」や「ゲーム」から「銭」や「ビジネス」に変わり、一丁前に今後の日本や世界を語る姿はとも勇ましかった。そして会話の中で幾度となく聞かせる「あの時は本当にお世話に……。まるで運動会のあの様に汗だくになり体がヘトヘト、ぐったりしてしまっ。

供たちと食べ比べに夢中だ。冷やし中華、とろろ蕎麦、生ハムとチーズとトマトの冷製パスタ、デザートのカットフルーツや洒落たデザート。禍を転じて福と為すとはこのようなことか(笑)。そろそろ、学食メニューも夏仕様になり替わる頃。ひんやりメニューの登場を心待ちにしている。今日この頃だ。 入試広報部 大橋 慶子

7月4日(月)新実験棟竣工式(津田沼)、16日(土)前期・春学期授業終了